

一般質問

6月11日、5名が登壇
市政を問う



議会の様子は「YouTube」で
配信されています。

一般質問

・带状疱疹ワクチン定期接種について



櫻井 勝

問

带状疱疹ワクチンは令和7年度から定期接種になりました。対象者は65歳の方、60〜64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方、その年度内に70歳以上の対象年齢となる方ですが、日本の疫学試験による带状疱疹の年齢別発症割合を見ると、50歳以上の発症が全体の65.7%となっており50歳代と60歳代で全体の42%を占めています。そこで市民の健康増進の観点のため市として50歳以上の方に接種費用の一部を助成してはいかがでしょうか

答

带状疱疹は、加齢や免疫力の低下により発症する疾患であり、特に50歳代から増え始め70歳代で最も多くなっています。国はこれらの状況やワクチンの有効期限、さらには重症化予防を念頭に置き、70歳代に十分なワクチン効果を発揮できるよう、生涯に一度のみの定期接種を原則65歳と設定しており、本市としては、国の定める予防接種法に基づく定期

接種の推進をまずは最優先課題と捉えております。

問

令和7年度带状疱疹定期接種の助成対象者・ワクチン接種者数について

答

対象者は2,165人、ワクチン接種者は605人で、接種率は、27.9%です。

問

令和8年度の想定接種率と接種率向上のための取り組みについて

答

令和8年度の带状疱疹ワクチンの予防接種率については、令和7年度の実績を上回るよう目指してまいります。接種率向上のための取り組みとしては、対象となる市民へ予防接種の重要性や効果、接種方法などに関するわかりやすい情報提供と周知の強化を図ってまいります。具体的には、市の広報紙や音声告知放送、市公式LINEなどの活用、医療機関などとの連携を密にし、市民の皆様が安心して予防接種を受けていただけるよう、適切な時期に積極的な情報発信に努めます。

一般質問

・市立御前崎総合病院の今後のあり方について



阿南澄男

問

医師・看護師不足、施設の老朽化等で医療危機が全国各地で顕在化しつつあります。要因として、日本では人口減少社会に突入し、拡充を進めてきた医療も、需要の縮小を見込んだ体制への転換が迫られています。市立御前崎総合病院の現状と今後のあり方について伺う

答

3月に副市長及び市も交えた近隣病院との話し合いの場を設けております。中東遠地区の医療体制は今後大変厳しい状況になることが予想され、連携の必要性について意見が一致しております。市としては、市立御前崎総合病院において、市民へ医療を継続的に供給していかなければなりません。が、診療が困難となった診療科などについて近隣病院でお願いできないか、また、他にも具体的にどのような支援をしていたかどうかを整理し、近隣病院へお示ししていく予定です。

問

現在、厚生労働省では、地方の医療を守るため、地域

ごとに医療機関などが連携する「新たな地域医療構想」を推進していますが、市長の見解を伺う

答

国の地域医療構想の中心的な施策は、病院の機能再編であり、小・中規模病院の機能分担もその一つとして掲げられております。現在、市立病院は近隣病院との連携についての協議を進めているところであり、まずは実現可能な連携、または役割分担について今後調整していくことで一致しております。

問

市立御前崎総合病院の稼働率、国の補助金を受けて病床数の削減を行うことを提案しますが、実施するお考えがあるかどうか伺う

答

令和8年3月より3階急性期病棟の2病棟79床を、1病棟60床にして、現在19床の休床分と5階の休床6床を合わせた全25床を削減し、国の病床数適正化緊急支援事業の補助金制度を利用する予定でございます。